農福連携取組事例集

「農業」と「福祉」が
つながって、
岡山を元気に！

岡山県・岡山県農福連携サポートセンター

はじめに

岡山県内には363か所(2020年・岡山県調べ)の福祉サービス事業所(就労継続支援事業所)があり、そのなかで、農業に取組んでいる事業所は71か所となっています。その内訳は、農業に取組んでいる就労継続支援A型事業所が35か所、施設外就労として農作業に従事している就労継続支援B型事業所が36か所です。

農福連携の取組では、施設の利用者にとって心身のリフレッシュや生活のリズムを安定させる効果があるとともに、事業所の就労機会の拡大や工賃(賃金)アップにつなげるねらいがあります。

一方、農業サイドでは担い手や人手不足の解消につながり、農業経営の安定化、経営規模の拡大に役立っております。特に、昨年からのコロナ禍では従来からの受託作業が減少している事業所もあり、施設外就労の場として農業が注目されています。また、人手不足に悩んでいる農業者、特に新規就農した若い経営者からは積極的に障害者を受入れようとする動きも始まっています。

農福連携はまだ緒についたばかりでありますが、岡山県においても今後、一層の農福連携の普及が期待されるところです。本事例集によって、農福連携の取組がより広く知られるとともに、新たに農福連携に取組もうとする方々に役立つことを期待します。

なお、事例調査に当たっては、対象事業所及び農業者の方には多大なご協力を頂きました。また、農研機構・西日本農業研究センターの中本英里研究員にもご参加と貴重なアドバイスをいただきました。記して、お礼申し上げます。

2021年3月

目次

はじめに・目次 …… 1
事例集の利用に当たって …… 2

福祉主体型

❶ジョブスマイル（倉敷市東富井） …… 3
❷ど根性ファーム（倉敷市・笠岡市） …… 5
❸岡山県健康の森学園（新見市哲多町大野） …… 7
❹コスモスワーク（真庭市五名） …… 9
❺美作自立支援センター（美作市楢原下） …… 11

農業主体型

❻ おおもり農園（岡山市中区） …… 13
❼ マヤファーム（和気郡和気町） …… 15
❽ みんな農園（倉敷市真備町） …… 17
❾ 吉備高原ファーム（吉備中央町田土） …… 19

連携型

❿ 丹原農産（笠岡市拓海町） …… 21

事例集の利用に当たって

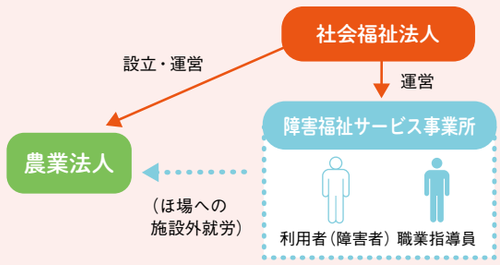
農福連携の取組内容は多種多様であり、取組数が増えるにつれて、取組パターンも多様化してきています。そのような状況下で、農福連携の取組主体等の違いにより、次の五つのパターンに区分されています。

❶福祉事業所が農業に参入する「福祉主体型」
❷農業者(法人含む)が障害者を雇用、または福祉事業所を別途立ち上げ併設する「農業主体型」
❸福祉事業所が作業請負の形で農業者を支援する「連携型」
❹企業が子会社を設置して農業分野で障害者を雇用する「企業出資型」
❺障害者の身体・精神状態を良くするために、病院、NPO法人等で農作業を行う「園芸療法型」

本事例集では、この五つのパターンのなかで比較的多くみられ、しかも「農業」での担い手不足の解消、「福祉」での就労機会の創出と工賃(賃金)の向上が直接的に期待できる三つのパターンの事例を対象としています。

福祉主体型

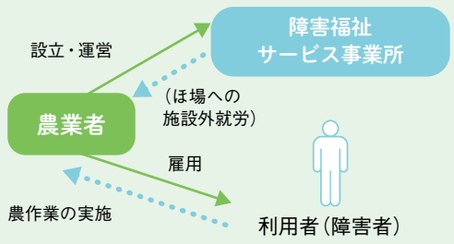
社会福祉法人等が自ら農業を行ったり、農業法人を別途立ち上げ併設する



❶ジョブスマイル
❷ど根性ファーム
❸岡山県健康の森学園
❹コスモスワーク
❺美作自立支援センター

農業主体型

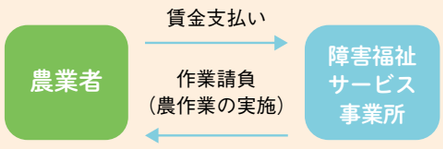
農業者が障害者を雇用したり、事業所を別途立ち上げ併設する



❻おおもり農園
❼マヤファーム
❽みんな農園
❾吉備高原ファーム

連携型

福祉事業所が作業請負の形で、農業者の所で農作業を手伝いをする



❿丹原農産

注)1　「区分」は、「農福連携技術支援者育成研修」テキスト(農林水産省)を参考にした。
　2　事例調査の担当者は、次のとおりである。
　　農研機構・西日本農業研究センター　研究員　中本 英里：❷、❻、❼
　　岡山県農福連携サポートセンター　アドバイザー　坂本 定禧：❸、❹、❺
　　岡山県農福連携サポートセンター　アドバイザー　桑田 和哲：❶、❽、❾、❿

CASE 1

福祉主体型

借地による露地野菜と水稲の大規模経営にチャレンジ

就労支援B型事業所「ジョブスマイル」(倉敷市東富井)と景山正義氏

https://www.jobsmile-kurashiki.com/

視察受入れ　可

取組みの契機と経過

①2016年に倉敷市内の就労支援施設で利用者の大量解雇の事例が発生したため、運営母体の「(株)ひまわりの種」が利用者の受け皿になることを意識して、2018年に農業、野球ボールの再生、公園清掃、お好鯛焼きの事業を行うB型事業所「ジョブスマイル」を設立した。

②農業は全く経験がなかった景山正義氏は、初心者でも比較的取り組みやすいキャベツの栽培技術を知人(矢掛町)から学んだ。そして、翌年からキャベツを本格的に栽培する農地を確保するために、倉敷市に相談し、真備地区の農業委員の紹介により200aの農地を借り入れることができた。また、船穂地区の水田60aを借り受け、併せて水稲も開始した。

③2020年には、岡山県農地中間管理機構を通じて、船穂地区400a、笠岡市800aの水田を借り受けて、水稲の経営規模を一気に拡大し、露地野菜と水稲の大規模複合経営を実現させた。

経営の概要及び取組みの内容

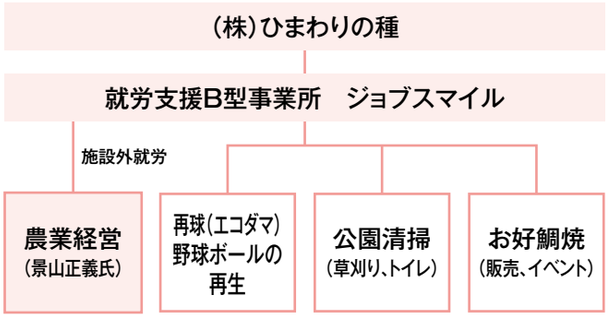
①利用者は2020年で知的・精神障害者14名(定員20名)である。

②農作業の分担は、トラクターなどの大型機械作業は景山氏、手作業中心の作業は利用者である。

③通常の勤務時間は10時から15時であるが、農作業の都合上、8時から12時のサマータイム制を導入している。

④事業所の運営会社が「(株)ひまわりの種」であったことから、農地集積が個人名義になり、農業経営の実績がなかったため、農業関係の補助金を活用することが困難であっ

組織体制



注)ヒアリング調査等により作成

た。そのため、トラクターやコンバインなどの農業機械は農機具会社からのリース事業で確保した。

⑤販売ルートは、キャベツが市内量販店（1グループ5店舗）、米がJAへの出荷である。

⑥販路開拓では、市内のある量販店が「前日倉庫搬入（荷出し作業は店舗サイドが行う）」という取引条件に応じてくれたので、午前中に収穫した野菜を当日中に保冷庫に搬入できるメリットが生まれた。一方、野菜の生産量は気象条件に左右されやすく、収穫量が予定を上回った時に処理に困っている。

ブロッコリーの播種作業

経営の概要

農地面積	14ha	
作　目	面積（a）	備　考
キャベツ	200	ブロッコリー タマネギ
水　　稲	1,200	

障害者が担う主な作業と工夫点

作物	主な業務内容	作業上の工夫点等
キャベツ他	堆肥散布、施肥、育苗、苗定植、防除、収穫、調整、出荷など手作業中心の作業.	指導員2名と利用者6～7名が農作業に従事
水稲	畦畔の草刈、水田内の手取り除草、収穫作業の補助	

注）ヒアリング調査等により作成

農福連携の効果とポイント

①ジョブスマイルの業務量の7割程度を農業部門が占めており、農業経営の規模拡大にも対応することができた。

②農福連携の取組開始から3年目であるが、屋外での農作業は利用者の意欲向上やリハビリ、ストレス発散などに役立っており、一般就労への移行は延べ3名に達している。

③農作業への取組状況を見守ってくれた地域の農業及び関係者からは、農地やため池の管理を委託されるようになった。また、野菜を納品している食堂経営者からも支援（食事サービス）も受けるようになり、利用者の自信につながっている。

④今後は、野菜収穫量の変動に対処するために、作付規模をさらに拡大して量販店仕向けとともに加工用野菜の契約栽培も始める意向である。

⑤今後の目標としては、障害者の自立を促すために、工賃アップ（現状の1万円台から5万円／月）につながる農業経営を目指したい。

お好鯛焼（利用者が栽培に携わったキャベツを使用）

スーパーへの納品準備

CASE 2

福祉主体型

6次産業化による就労機会の拡大

合同会社ど根性ファーム（倉敷市茶屋町、笠岡市干拓地内、十一番町）

http://dokonjou-farm.com/

視察受入れ　可

取組みの契機と経過

①中四国エリアで介護福祉事業を展開する創心會が、2010年に利用者のリハビリを目的として農作業体験活動（「リハケアファーム活動」）を始めた。これが発端となり、2012年に企業グループの一つとして農地所有適格法人（合同会社ど根性ファーム）を設立し、農福連携の取組を発展させてきた。

②2013年に笠岡湾干拓地の農地4haを借り受け、青ネギを生産し農業に本格的に参入した。2014年より地元ラーメン店への納入や業務加工用原料としての販売、グループ内企業の配食施設への出荷を開始した。2017年に6次産業化事業計画の認定を受け、カットネギ工場も新設し、工程の一部をグループ企業の一つであるリンクスライヴ（就労継続支援A型事業所）に作業委託している。

③2018年に6次産業化優良事例表彰・農福連携賞を受賞し、2019年に中四国農政局ディスカバー農山漁村の宝・ビジネス部門に認定された。

ネギの調整作業

カット作業前の洗浄

経営の概要及び取組みの内容

①約4haの農地で業務加工用の青ネギを生産し、カットして販売している。職員は、生産部門・カット加工・販売部門で計5名、配食事業部門で3名である。

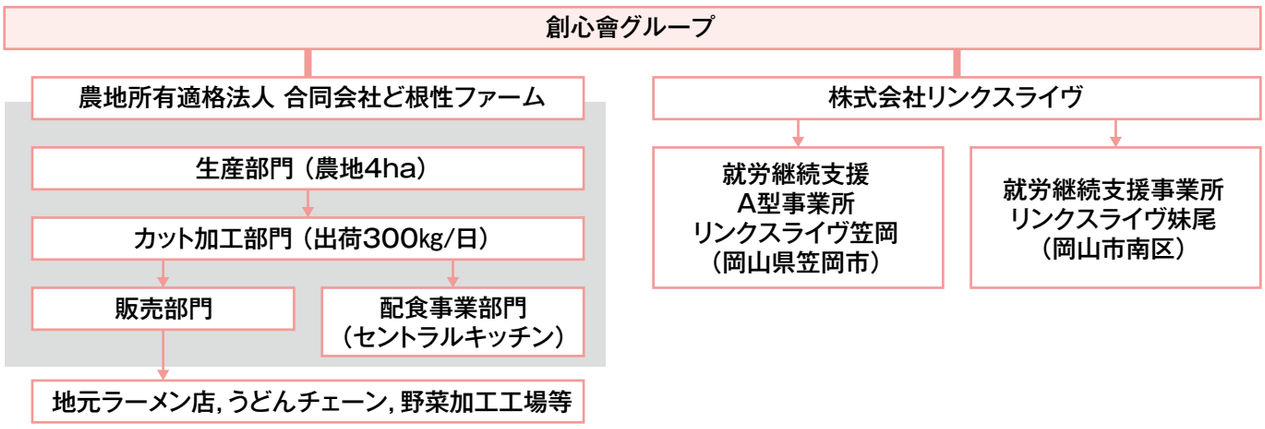
②カットネギ生産にかかる作業の一部は、株式会社リンクスライヴに作業委託しており、就労継続支援A型事業所リンクスライヴ笠岡の利用者16名（身体障害1名、知的障害7名、精神障害8名）と同事業所職員5名が作業に従事している。

③リンクスライヴの利用者（障害者）が農場内で行う作業には、除草、マルチングの補助、収穫作業などがある。

④カット加工部門では、梱包作業の標準化と効率化に向け、取引ロットを全て500gに統一しており、障害者でも作業が可能な体制が整備されている。主な作業は、選別、外葉除去、洗浄、カット、計量、袋詰め等である。

⑤販路は、地元ラーメン店やうどんチェーン店への納入、業務加工用原料としての販売（笠岡市・倉敷市）を確保している。

ど根性ファームとリンクスライヴの概要



注）ヒアリング調査等により作成

農福連携の効果とポイント

①通年栽培できる青ネギに特化し、障害者の就労機会を安定的に確保するとともに、6次産業化により多様な部門での就労機会の提供も実現させている。

②A型事業所職員のみならず、ど根性ファーム職員も福祉分野の専門家であることから、利用者の障害特性に応じた業務分担や、適応力の向上を重視した作業環境整備が充実している。

③収穫後の青ネギの選別、外葉除去の工程では、作業効率の観点から、機械を導入して立位で行うのが通例であるが、片麻痺の利用者の身体的な負担を考慮し、座位で手作業で行えるよう作業体制を見直すなどの工夫をしている。

④一般就労を見すえて、特定の作業の能力向上ではなく、難易度や環境の変化への適応力の向上を重視した指導や支援を行い、障害者のスキルアップも図っている。

⑤また、ど根性ファームが、リンクスライヴ利用者の一般就労の受け皿にもなっており、グループ内の連携を通じて、障害者が次のステップへと進む機会を得ている。

ネギの定植作業

ネギの収穫作業

CASE 3

福祉主体型

シイタケ・餅加工等 多角経営による工賃高水準の実現

社会福祉法人 岡山健康の森学園就労継続支援事務所（新見市哲多町大野）
http://fukukenmori.com

視察受入れ　可

取組みの経過と事業所の概要

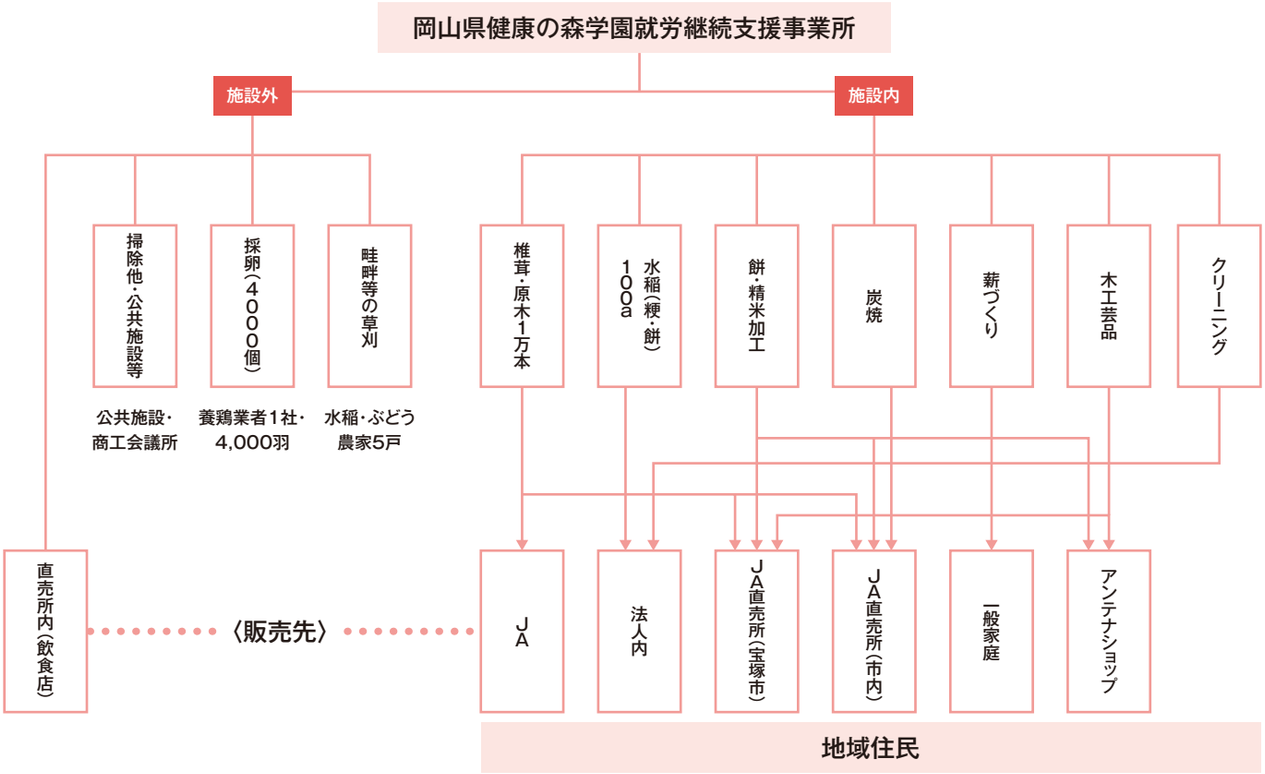
①「大地育人」の理念のもとに、障害のある方々の福祉の増進を図ることを目的として、1991年4月に開園し、特別支援学校と福祉施設を一体的に運営している。
②当事業所では、開園時から農林業を活動に取り入れており、利用者は主に知的障害者である。
③1日当たり5～6時間の農林業での作業活動を通して、工賃は25,500円(2020年)で県平均の1.7倍と高水準を実現・維持している。

シイタケの原木栽培

経営の概要及び取組みの内容

①農業は、シイタケの原木栽培1万本(乾燥・生)、水稲100a、木炭、薪、餅加工の多角経営である。
②農業関連の収入は約1,200万円（2020年）で、約8割は施設内の椎茸(乾燥・生)、水稲(粳・餅)、餅加工、木炭、薪等であり、2割が施設外の養鶏農家の採卵、水稲農家の稲作作業受託である。なお、販売額の順位は、餅加工、椎茸、米の順になっている。
③採卵、シイタケ作業の細分化による作業マニュアルを作成し活用している。
④販売はJA直売所をはじめ、アンテナショップ（森のおみせ）、学園給食、飲食店等多岐の販売ルートを確保している。また、木酢液、炭加工品、木工品等オリジナル商品も販売している。

生産・販売システム



注）ヒアリング調査等により作成

農福連携の効果とポイント

①経営の複合化・多角化による土地・労働力の高度利用、特に生産品目の組合せによる労働力の安定的利用を図っている。

②シイタケの原木栽培による高単価の実現と生・乾燥の組合せによる安定生産を実現している。

③シイタケの高品質生産の実現と高評価(全国表彰)によるブランド化をめざしている。

④モチ米の餅加工、シイタケ原木の端材利用による薪・木炭・木工加工製品の作製等6次産業化を実施している。

⑤年間、作業毎の工程表を作成・活用し、作業能率の向上を図っている。

⑥利用者の作業適性を見極めるため、アセスメントシートや工賃評価票を作成・活用している。

⑦学園内調理場に給食米の納品、施設外就労での採卵作業の年間受託、販売ルートの多様化等により、安定的な収益を確保している。

養鶏場での採卵

もち加工

CASE 4

福祉主体型

花き・野菜種苗農家の作業受託・果樹等による多角経営の確立

社会福祉法人コスモスワーク（真庭市五名）

http://kosumosukai.jp/

視察受入れ　可

取組みの経過と事業所の概要

①1994年8月、社会福祉法人秋桜会が設立される。生活介護・援助・短期入所等を実施するコスモスの園をスタートしその後、就労継続支援B型事業所のコスモスワーク、グループホームのコスモス共同生活事業所を開設する。また、放課後児童健全育成事業や買い物送迎サービス等も提供し、地域にも貢献している。

②コスモスワークでは、果樹等の農業生産、焼き菓子等の製造・販売、ペットフードの袋詰、作業受託(施設外就労) を実施し、特に、知的、発達障害者の就労促進を実現している。

菓子の製造

組織体制

社会福祉法人秋桜会

- コスモスワーク　就労継続支援B型事業所
- コスモスの園　生活介護・援助・短期入所・日中一時支援
- コスモス共同生活事業所　共同生活援助
- サポートステーションコスモス　計画相談支援・障害児相談支援
- 北房児童クラブ　放課後児童健全育成
- コスモスおでかけ便（買物送迎サービス）　地域貢献

注）HP・ヒアリング調査等により作成

経営の概要と特徴

①農業生産では、6名の利用者がピオーネ・黒大豆の生産に、食品加工では5名の利用者が焼き菓子等の製造、製品加工ではペットフードの袋詰めに取り組んでいる。また、施設外では、地域の大規模花き・野菜種苗農家の栽培管理(春期の野菜苗の定植、秋期の花苗定植等)、地域農家の畦畔草刈、高齢果樹農家の防除、果樹農家の出荷箱折、市立公園の清掃管理の作業を受託している。

②販売ルートは主として、JA、直売所、法人内消費等であり、販売額は、農産物、加工品、作業受託(施設外就労)の3部門で約620万円である(2019年)。

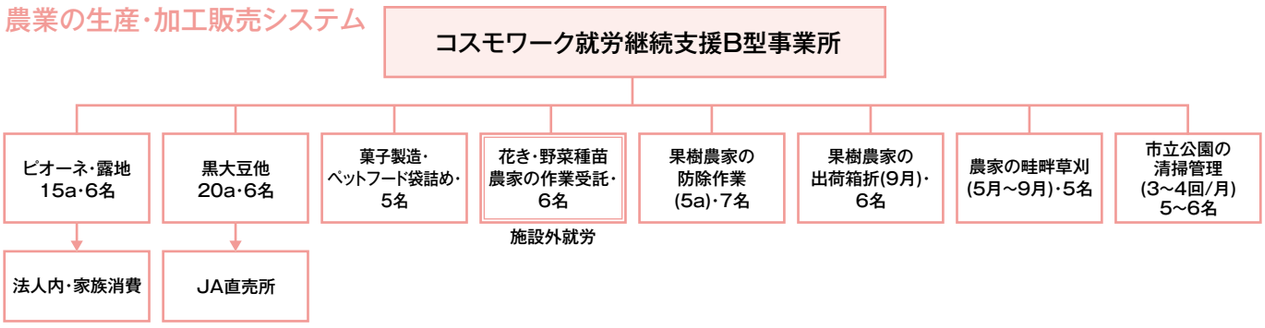
③利用者は、コスモス共同生活事業所の入居者と自宅からの通所者であり、利用者の利用時間は午前9時から午後5時までで、農作業時間は4～6時間である。

④利用者は指導職員と一緒に農作業をするが、大型機械(トラクター等)による耕耘等、危険を伴う機械作業は指導職員が担当している。

⑤穀物類の堆肥散布の作業では、散布箇所に白線で目印をつけ、散布場所を分かりやすくしている。また、ピオーネの樹に番号札をつけて、作業が重複するのを回避するなど作業上の工夫をしている。

出荷前の花苗

農業の生産・加工販売システム



注)HP・ヒアリング調査等により作成

農福連携の効果とポイント

①経営の複合化・多角化による土地・労働力の高度利用、特に生産品目の組合せによる労働力の周年・安定的利用を図っている。

②花き・野菜花種苗農家(法人)の作業受託により、この農家の重要な担い手の役割を果たしている。

③高齢化に伴う担い手不足に対応して、畦畔草刈、防除の作業を受託することにより、地域農業の維持に貢献している。

④2019年の工賃は一人月額21,634円(2019年)で、県平均の約30%増の高い成果をあげている。

花苗の出荷準備

障害者が担う主な作業と工夫点(農業生産・農作業受託)

作目	主な業務内容	作業上の工夫点
果樹(ピオーネ)	肥料散布 栽培管理	散布箇所に白線で目印をつける ピオーネの樹に番号札を添付し、分かりやすくしている 利用者と職員で作業し、最終的に職員が確認している
黒大豆他	耕耘	機械作業は職員が担当し、それ以外の作業は共同で実施している

注)ヒアリング調査等により作成

ピオーネの栽培・収穫など